2017 秋 第4号
7 Generations walk News

Stand with Standing Rock

2016 年 アメリカのノースダコタ州スタンディングロックでオイルのパイプライン建設に反対する運動が特別な形で世界的に有名になりました。2016 年の 4 月から始まった、座り込みの運動は最初は 20 人から始まり 11 月には約 1 万人が毎日キャンプし、パイプラインの建設を阻止するようになっていました。

全米のパイプラインではこの 10 年間の統計上で毎日約 45 回の事故が起こっており、水や環境を汚染してきました。環境と命への配慮に欠いた大企業と政府、そして社会の姿勢へ、大きな疑問を投げかけたのがスタンディングロックの運動です。

デニス・バンクス師が伝えてくれた、この運動のコンセプトは「**私達はオイルそのものに反対しているのではなく、水が命であることを理解していない人達へ、命の立場から警笛をならしているのです**」というものでした。オイルは生活に有益です。しかし、人の命や健康が害されては、その利益は台無しで本末転倒になってしまいます。命が守られてこそ、オイルは意味を持ちます。

そのことは、地元住民、水を守ろうとしている人達だけでなくオイル会社の人達、工事関係者、政府や警察官も含め全ての人達に通じる事実です。

この事実の「オイル」の部分を「原発」や「トンネル工事」など全ての人間の活動に置き換えても良いと思います。

命の水を皆で守ろう

今年は 7 Generations Walk ～ Water is Life ～ 2017 と題し、5月16日～6月26日まで長野県の大鹿村から山口県の上関まで約800キロを歩きました。大鹿村にはリニアモーターカー建設による、南アルプス貫通トンネル工事の水源汚染問題があり、上関には原発建設にともなう瀬戸内海水質汚染問題があります。両方の場所で大切な「命の水」が危機にさらされています。詳しくは次のページで御紹介します。

現在「水」を守ろうとする運動が世界中で活発化しています。私達の身体の約6割は水で出来ています。「水」は私達が生きていく為に必要不可欠であり、まさに「命」を象徴していますが、今その水が危機にあります、今この「水」がキーワードになり、世界中、日本中のムーブメントが展開されていることに深い意義を感じています。

祈りで問題解決を

スタンディングロックの運動が有名になった特別な理由とは「**祈りで問題を解決する」という意志が運動全体で貫かれていたこと**です。力で力に対抗して、問題を解決できる時代は終わりました。原爆などの大量殺戮兵器は暴力の行きつく所は人類の破滅であることを示しています。

私達の心が変わらなければ問題は解決されないことも人類は理解し始めてきました。環境破壊や戦争の大きな原因は私達の心にあります。貪欲さや恐怖、分断や命への不理解が心の問題の原因の主なものです。反対に理解や感謝、愛や分ち合う心が問題解決の鍵となります。スタンディングロック運動のメッセージは「水は命」です。これを深く理解し運動の信念を保つ為に祈りが必要でした。なぜなら「命」そのものが私達の理解を越えている奇跡だからです。彼らの祈りとはこの命の奇跡を常に意識し、その命の力と共に行動する為にありました。ですから、その運動は、本来の命の力が持っているように力強く感動的で多くの変化をもたらしたのです。

世界と未来に繋がる

スタンディングロックでは怒りからではなく、**愛と祈りから「水は命である」ということを伝えられる人だけが運動の先頭に立つことを求められました。**そして、敵対する人達に「私はあなたとあなたの家族為にも祈っている」と伝え続けました。「水は命である」このメッセージは全ての人、全生命に共通しており、全ては繋がっていることを、彼らは祈りを通して実感していたので、その言葉には真実の力がありました。

その言葉を聞いて心動かされる軍人や警察官もいましたが、メディアを通してその言葉を聞いた人々の心にも届きました。そのメッセージが全ての人に対して発信されたものだからです。そして、そのメッセージを心で受け取った人が集結しました。そして、この運動は全米と全世界に拡がっていったのです。

スタンディングロックで活動している人たちの姿に多くの人が心をうたれました。なぜなら、その真**実と愛と祈りに根差した行動は力強く、感動的に輝いていたからです。**その姿に共鳴し集まった一万人がスタンディングロックで毎日祈りを捧げて行動していたのですから、そのエネルギーは素晴らしいものだったのでしょう。実際にそのエネルギーに触れた多くの人達・若者が命の真実と祈りに目覚めました。私は今年、ロンゲストウォークやサンダンスでこの目覚めた人達にアメリカで出会いました。そして、彼らの姿に未来への力強い希望を感じたのでした。

発行者　7 Generations Walk
代表　　山田圓尚　mail 7gwalk@gmail.com
7 Generations Walk はネイティブアメリカンの「7 世代先の子供達の事を考えて今を生きよ」という教えをもとに日本中や北米を歩いてメッセージをシェアしています。

http://7gwalk.org

僕達を生かしているのは、大地と水と太陽だ

私達の暮らしの中でも、社会を見ても、問題は悪化し複雑化していくばかりで、解決の糸口も見えず、閉そく感の中で息がつまりそうになることもあるかもしれません。

そんな時に私が思い出そうとしているのは、**どんなに人間の社会や暮らしが荒れ果てても、私が命として、大地や水や太陽に生かされていることはなんら変わりがないということです。**そう思い出すと急に心が落ち着き、この視点の方が深くリアルだと感じ、肉体と精神が喜び、力が満ちてくるのを感じます。人間社会の中で、至らない人の心が作りだしている問題の方が幻想に見え、その幻想を打ち破って、命の真実の上でいきたいと思ったりもします。

私が満たされる為には実は何もする必要はないのかもしれません。それは釈迦も示してくれていることです。釈迦が悟った時にしていたことは木の下に座り息をしていただけです。「在る」ことを充分に感じられたなら、そこには完全に自分を満たしてくれている自然と命の恩恵があります。**私達はすでにその命の事実の上にあるのですから、命の基本的な存在意義は何かを満たす為にあるのではなく、満たされていている事実の上で溢れる力を愛で分かち合い、その命の力を増幅させる為にあるのかもしれませんん。**

火（男性性）と 水（女性性）

ネイティブの教えでは火は男性性を象徴し、水は女性性を象徴すると言われています。そして、この二つのバランスが取れていることが命にとって大切だと。火が強すぎれば水は蒸発してしまうし、水が強すぎると火は消えてしまいます。この二つの絶妙なバランスが私達の体温と地球の温度を健康に保っています。

現代社会を見てみますと、戦争や地球温暖化などなど、まさに男性性の方にバランスが傾き崩れているのが良く分かります。この崩れてしまったバランスを取り戻す為にも、今、「水」に焦点を当てることが必要なのだと感じています。

現代、れいせいに考えれば、暴力では誰の命も守れないし、救えないことを思い知らされてきました。「水」はもちろん「命」です。そして、この「命の水」を守る方法も、男性性に傾いた現代社会の暴力的な方法ではなく、祈りやアートといった感性を重視する女性的な方法が選択されているのだと思います。俯瞰的な視点から見れば、火が大きくなっているのが問題なのだから、力を使い火に油を注ぐように問題を悪化させるよりも、ハチドリの物語のように少しでも水を注ぐことが大切なことが分かります。

本当の意味で、家族や愛するものを守ろうとしている現代の真の戦士はこのことを直観し、理解し、行動しています。祈りで問題を解決することが実は現代ではとても現実的なのです。

歩いて繋がる

私達は歩いて旅をしながら、母なる地球と足の裏から繋がりなおそうとしてきました。情報に溢れた社会ですが、肉体的実感が欠けていることを感じている人も多いかと思います。実感がないから、力が出ず、満たされていることを知ることも難しいのです。**情報と実感は全く違う場合もあります。「母なる地球と一つであること」を頭で理解しているのと、「繋がっている」状態で感じることは結構違ったりします。**繋がってみると、そこには想像もしていなかった付属的感覚に溢れることもあります。それは愛や癒しや感動だったり、もちろん個々人で違ったりするのですが、**実は「繋がる」ということの本当の意義はその予期しなかった感覚を思い出すため**だったのかも？と後で気づくこともあります。

もちろん繋がるまでは、肉体と精神の調整が必要ですので幾つかの壁を越えていくことは必要かもしれません。しかし、すでに壁を越えて来た先人達の清々しさに導かれ、、仲間達に励まされてそのような境地に辿りつくことも多いようです。そのような境地の感覚は根底の部分で繋がっていることも観じますし、母なる地球の上に私達は皆繋がっていて、命の神秘のうちに私達は一つである事も実感できます。

そのような実感を共有した感覚はとてもリアルで、ホントの家族の様な愛に溢れる繋がりを感じることもあります。そのような実感を共有できる機会を皆とシェアしていきたいです。

ロンゲストウォーク5 2018（行こう

来年、7 gのルーツである、アメリカ大陸横断「ロンゲストウォーク」は40周年を迎え、「ロンゲストウォーク 5.3」が2018年2月から7月までの期間で行われる予定です。40年間その活動は継続されてきました。LW 1978〇LW2 2008〇LW3 2011〇 LW4 2013〇LW5.1 2016〇LW5.2 2017 ☆LW5.3 2018 年☆　その都度メインに掲げるテーマは違い、78 年はインディアンの生きる権利を守る為　08 年環境と聖地保護 11 年糖尿病撲滅　13 年原点回帰　16 年 17 年はドラックと暴力の問題解決を訴えました。しかし、問題の解決方法は「歩いてアメリカ横断する」という事で一貫しています。母なる地球と繋がりなおし、その繋がった状態を一団がキープし、言葉を越えた希望と力を分かち合っていきました。現代社会問題に立ち向かいますが、その解決方法は精神的なものです。

今年のロンゲストウォークにもスタンディングロックで目覚めた多くの若者が参加していて、力強い印象を持ちました。来年のウォークにも、そのように目覚めた人々が参加します。ぜひ、日本からも多くの若者や思いある人に参加していただけたらと思っています。アメリカンインディアンと日本の民の交流が力強い未来への希望を与えてくれるでしょう。

7 gウォークでも参加ツアーを企画したり情報をシェアします。ぜひ HP などをチェックして下さい。よろしくお願します。

ホーミタクエオヤシン

7 Generations Walk〜Water is Life〜 2017 大鹿→上関

私も Standing Rock の命の水を祈りで守る運動には大きな影響を受けました。実際に「祈りで問題を解決する」という思いが一万人の人達の中で機能し、一時は政府の決定を覆し、パイプラインの建設が中止になるところまで、その思いが現実化したことに、大きな感動と希望を感じました。

祈りで問題を解決する！などと絵空事のように思う人もいるかもしれませんが、それこそが問題を根本的に解決するということを示したのが Standing Rock のメッセージでもあったように思うのです。命は理解を越えた奇跡です。ですから祈りをもってのみその真意を理解できることは歴史が証明しています。命への理解を分ち合えるからこそ、命を守り、命の水を守ることができるのです。わけがわからないものを守ろうとする人は少ないように思います。環境破壊、戦争、放射能。命が粗末にされている現代の現状から現代人に命への理解が足りないことは明らかです。

しかし、**時代は変わろうとしています。もう一度、祈りが現実的に欲望に勝る時代がやってこようとしています。**私も彼らと一緒に Standing Rock に同調して立ち上がりたいと思いました。Water is Life 〜水は命〜このメッセージは普遍的な事実をもとにしています。そして、水や大地が汚染されていく問題は世界中にあり、その問題の原因は国際的企業や物質至上主義という形で世界中が繋がっています。実際に Standing Rock のダコタアクセスパイプラインに一番出資しているのは日本の銀行なのです。ですから、私達が日本の中の問題に祈りを持って立ち上がり、その問題の原因に焦点をあて、解決していくことは、つきつめると世界全体の問題の原因と立ち向かうことになるのです。

水を守る運動、それは私達の命を守る運動であり、命への理解を蘇らせる運動であり、命の神秘に繋がる祈りを復活させる運動であると感じています。私達は今年、長野県の大鹿村から山口県の上関まで「Water is Life」の旗を掲げて約 800 キロ歩きました。歩きながらこのメッセージを共有すると多くの人が共感してくれました。そして、40 日間の間に虹を 7 回みました。時の流れにのり、天地が祝福してくれている感じもしました。

この祈りを共有しながら、命の道を歩み、生命が輝く次の時代の扉を開いていきたいです。どうぞよろしくお願いします。

サンダンスの聖なる命の木

7月にミシガンのサンダンスに参加しました。**一番印象に残っているのは「世界に遍満している命の力」を感じた事です。**サンダンスでは会場の中心に聖なる木「サンダンスツリー」をたてて祈りを捧げます。それは命の神秘そのものを象徴しています。命の神秘、命の源、命そのものは私達の理解をこえた奇跡です。例えば、私達は心臓の動かし方を知りませんが、心臓が毎瞬間動いているからこそ生きています。私達の魂がどこから来て、どこに帰るか?どのように来て帰るのか?は知りませんが、私達の肉体に魂が宿っているから生きていることも事実です。そう意識すると、目に見えない世界と目に見える世界が繋がっているからこそ、生命の世界・宇宙が存在していることが分かります。その目に見えない存在を「世界に遍満している命の力」と例えました。その見えない力は、見えない＝現象ではないからこそ、名前や何かで表現することは出来ないものですし、表現した瞬間それは別物になってしまいます。しかし、この世に存在する**「智慧や言葉や祈りを道しるべとして、その命の力を感知する事」は出来ます。**サンダンスはその智恵のひとつです。

そして、私達が普段の生活で感知しようと、しまいと、私達はその世界に遍満する命の力に常に活かされ続けています。でも、その命の力を普段から実感し、感謝し、いつでも共にある感覚で生活するのはなかなか難しいのものです。古来から人々はそのことを感じていて、定期的にこのことを実感する為だけに過ごす時間を設けていたようです。そうすることによって、毎日の生活の中で命の本質が明らかになり、感謝と謙虚さの中で暮らしが充実し循環していくのも体験していたからだと思います。そんな意図でサンダンスもネイティブ達が自然と共に暮らしていた何万年も前から続いているものです。このような期間は現実的にはまったく非生産的ですが、現象世界の裏側であり、根源ともいえる世界と繋がってはじめて個人や社会のバランスが取っていけることを理解すると必要なものなのでしょう。この命の力を真に感じる機会を失えば、バランスを崩し、世界は悲しみと争いに満ちてしまいます。

命そのものを理解できなければ、命を大切にすることもできないでしょう。

命の繋がりを理解できなければ、他の命を敬うこともできないでしょう。

私達の命は、世界に遍満する命のエネルギーで一つに繋がっています。

私はこの命の力を再び皆で感じ合える場をシェアしていくことに、人生の焦点をあてていきたいのです。私は小さな存在ですが、同時にその大いなるものの一部であり、謙虚に感謝と喜びの内にサンダンスすることができました。これからも毎日の暮らしの中で、そのことを思いながら皆と共に生きていけたらと思います。Every Day is Sundance !!!!

長野県大鹿村のトンネル工事問題

長野県の大鹿村にはリニアモーターカー建設に伴う、南アルプスを貫通させるトンネル工事の問題があります。湧き水の著しい減少と水の汚染問題、騒音の問題、電磁波の問題などです。環境アセスメントは工事の規模が大きすぎて充分にできるはずもなく、**神々しい山々を見ていると、この山に穴を掘ることの恐ろしさは人知を越えた苦難を人間や動植物に与えるだろうと感じています。**

リニアプロジェクト全体に対しても大きな疑問があります。①リニア建設の一番の理由は新幹線の乗客数が増えすぎるので、その運搬能力を補助する為でした。しかし、乗客数は 2003 年以後減少し続け、2010 年以後はその一番の理由がリニアの建設目的から取り下げられています。②リニアのスピードは速いのですが、リニアのホームが地下深いのでホーム間の移動時間を考えると全体的な時間短縮にはあまりなりません。③最近の乗客の傾向はより安価なバスに移行する傾向にあり、高額なリニアを持続的に選択する人は少ないでしょう。④人口が減少していくのに伴い、新幹線の乗客は当然減るのに、リニアの乗客がどれくらい見込めるのでしょう？⑤ヨーロッパなどの基準では許可が永遠に下りないほど乗客への電磁波の健康被害の危険性も高いのです。⑥全体で約 9 兆円の建設費用。最初は JR が全て出資するはずでしたが、現在すでに 3 兆円を公的資金を投入することになっています。

採算が取れず、安全性にも疑問があり、環境を破壊し、利便性もそれほどなく、それに私達の莫大な税金が投入される。リニア建設に伴う犠牲を、地元の住民、自然、国民が請け負う価値はあるのでしょうか？

山口県上関の原発建設問題

山口県の上関には原発建設に関する問題があります。その原発から出る温排水は瀬戸内海全体の死滅を引き起こすと言われています。

建設予定地の田ノ浦や長島は手つかずの自然が残る美しい地域です。**上関の美しさは日本列島にあった本来の自然の姿を思い出すために貴重な場所です。その海と共に生きている地元の方々の暮らしぶりなども含め、社会全体が持続可能な方向に進むための指針ともなりえる場所です。この自然を守ることは日本や世界にとって大きな意味があると感じています。なによりも、上関に行くとその自然に私達の心身が癒され喜ぶのを感じています。**

皆さんご存知のように、電力は足りています。もちろん福島原発事故以来、原発の安全性には大きな疑問もあり、莫大な建設費や環境破壊の犠牲を考えて、その原発を建てる充分な理由があるとは考えられません。

２０１１年の原発事故以後、2012 年に田ノ浦の埋め立て免許が取り消しになりましたが、何故か 2016 年にその免許が復活してしまっています。また埋め立てを開始する条件は、国の政策が原発の新規増設を認めたらとあります。現在は国の政策はそのようにはなっていませんが、今までの経緯を見ると油断ができない状況にあります。

詳しい報告は７Generations Walk のブログに載っています。是非ご覧下さい。 http://7gwalk.org

リアルな体験をシェアします

ネイティブとアメリカの大地を

来年のロンゲストウォークにも是非一緒に参加しましょう。ウォークは2月中旬シアトルから7月中旬ワシントンDCまでです。その期間中で参加できる期間に参加していただけたらと思います。期間の長さは問いません。私達も2月のスタートから参加します。ツアーのようにグループで希望者と一緒に渡米できたらと思っていますので、ぜひお問い合わせください。

ロンゲストウォークのリーダー来日

11月にロンゲストウォークのリーダーのボビーウォレス氏と一緒に、ロンゲストウォークの参加者をつのる日本ツアーをします。ぜひそちらにも参加して下さい。詳しくはホームページをご覧くださいませ。

ウォークやスエットロッジ

その思いを共有する為の体験を出来る機会を私達はシェア出来たらと思っています。

今後もウォークやスエットロッジなどの体験の機会、お話し会やイベントなどの学びの機会を持っていきたいです。その情報はホームページなどで随時お知らせしていきますので、ぜひチェックして下さい。

私達は反対するために立ち上がっているのではなく、人が命として本来あるべき姿で立ち上がり、命の道を皆と共に歩もうと言う思いで活動しているのです。

そして、そのような体験を共有してきた仲間達とは家族のように深く精神的に繋がりました。私達はただ反対しているのではなく、このように人が本当に幸せで満たされている本来の状態を体験していて、その幸せを世界の皆と分かち合い、未来の子供達と分かち合う為に活動しています。

命の道を共に歩む

色々問題はありますが、私達は希望をもって歩かせていただいています。私達は歩くことや祈ることで母なる地球との一体感を感じ、その体験に感動し、力をいただいています。

実際ウォークやサンダンスの時に、自分だけの力では乗り越えられないような苦難をそんな天地と繋がる力で解決したり、また絶妙なタイミングで天が虹を見せてくれたり、母なる地球が常に与えてくれている愛を何気ない時に見る自然の姿から感じ深く感動し魂が蘇ったりしてきました。